

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	全腹腔鏡下子宮摘出術における麻酔方法と術後疼痛・術後悪心嘔吐の検討
研究責任者	聖隷浜松病院麻酔科 日比野 世光
研究実施体制	研究責任施設 聖隷浜松病院麻酔科 共同研究施設 国際医療福祉大学大学院 医学研究科 医学専攻・公衆衛生学
研究期間	承認日以降 ～ 2029年 3月 31日
対象者	2016年1月から2025年12月までの間に聖隷浜松病院で子宮筋腫に対して全腹腔鏡下子宮摘出術を施行した患者様。
研究の意義・目的	全腹腔鏡下子宮摘出術に対して、当科では、全身麻酔に加え、硬膜外麻酔と脊椎くも膜下麻酔を併用する管理と、神経ブロックを併用して管理する方法のいずれかで患者さんが安全に手術を受けられるよう麻酔を実施してきました。 この二つの方法のどちらが、より術後の患者さんの術後疼痛を減らし、術後悪心嘔吐を減らせているかを評価し、より良い麻酔管理につなげたいと考えております。当院では、全身麻酔後にリカバリ室で経過を観察してから病棟に帰室するようにしています。リカバリ室での経過観察は最短で30分とし、もし患者さんが痛みを訴えた場合は鎮痛薬を投与、悪心嘔吐がある場合は制吐薬を投与し、その時点からさらに30分経過を見るようにしています。良好な鎮痛を得て、術後悪心嘔吐が少なければ、リカバリ室に患者さんが居る時間が短くなります。硬膜外麻酔・脊椎くも膜下麻酔併用法と、神経ブロック併用法で、患者さんのリカバリ室滞在時間はどちらが短い、看護師が介入した回数はどちらが少ないか、を調査したいと考えております。
研究の方法	【研究デザイン】後ろ向き観察研究 【方法】対象の患者様について、診療録から以下の項目の調査を行います。 主要評価項目：術後リカバリ室滞在時間、リカバリ室看護師看護介入回数 副次的評価項目：術後リカバリ室での疼痛スケール(numerical rating scale: NRS) PONV強度、と麻薬投与量、鎮痛補助薬投与量、制吐薬投与量、昇圧薬投与量、低血圧の頻度、麻酔に伴う急性期合併症の有無。 患者背景因子：年齢、性別、身長、体重既往歴、PONVの既往、動揺病の既往・喫煙の有無、術前検査 麻酔因子：麻酔方法、麻酔薬の種類・投与量、麻薬の種類・投与量 手術因子：手術時間、出血量、輸液量、輸血量、尿量
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになり

	たい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 麻酔科 日比野 世光 TEL:053-474-2222(代表) 9:00~17:00 平日